

## 令和4年度ウエスコ財団優秀研究者賞

第7回目となる令和4年度ウエスコ財団優秀研究者賞は、以下の2名に決定しました。

### ① 宮野 佳（川崎医科大学 自然科学教室 講師）

【研究題目】 「活性酸素生成酵素 Nox の制御機構の破綻メカニズムの解明」

：令和元年度・2年度研究活動費助成事業

宮野佳氏は、生化学の研究者で、生体の必須因子である活性酸素の生成源 NADPH オキシターゼ(NADPH oxidase; Nox)がどのような仕組みで生理的・病理学的な機能を果たすのか、研究を行っています。その研究の中で、Nox の制御機構の破綻メカニズムに着目し、成果の一例として、創傷治癒やがんに関わる細胞遊走が Nox の制御下にあることを示しました。今後は、がん組織への血管新生（栄養の供給路や転移の経路を形成）を阻止できる新規治療法の確立へつながることが期待されます。このような学術的な功績が評価されて、今回の受賞となりました。

### ② 松山 誠（重井医学研究所 分子遺伝部門 部長）

【研究題目】 「新規ゲノム編集ラット作製法 rGONAD 法を用いた腎臓病モデルラットの開発」

：平成30年度研究活動費助成事業

松山誠氏は、分子遺伝学の研究者で、腎臓病、肥満や高血圧などの疾患モデル動物であるラットに着目し研究を行っています。その研究の中で、受精卵を体外に取り出さずに遺伝子改変ラットを作製できる手法 rGONAD 法を開発し、腎臓の難病「アルポート症候群」を再現できるラットの作製に成功しました。今後は、アルポート症候群の病態進展の解明やこの遺伝病に対する治療法の探索が期待され、これらの研究活動が国際誌の論文や各種メディアで発表されています。このような学術的な功績が評価されて、今回の受賞となりました。

令和4年度ウエスコ財団優秀研究者賞の表彰式と受賞者講演会は、2023年6月1日にANAクラウンプラザホテル岡山で行われ、表彰状とともに副賞（研究奨励金30万円）が宮野佳氏と松山誠氏に贈呈されました。



左より松山氏・山地理事長・宮野氏

その後、受賞者による講演会を行いました。



宮野佳氏の受賞講演



松山誠氏の受賞講演